

種子島から得られた大隅諸島初記録のカエルアンコウ

著者	吉田 朋弘, 桜井 雄, 高山 真由美, 本村 浩之
雑誌名	Nature of Kagoshima
巻	46
ページ	181-183
発行年	2020-05-31
URL	http://hdl.handle.net/10232/00031413

種子島から得られた大隅諸島初記録のカエルアンコウ

吉田朋弘¹・桜井 雄²・高山真由美³・本村浩之³¹ 〒 851-2213 長崎市多良良町 1551-8 水産研究・教育機構 西海区水産研究所² 〒 900-0003 沖縄県那覇市安謝 2-6-19 沖縄県環境調査株式会社³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

カエルアンコウ科 Antennariidae は日本近海に 4 属 15 種が生息しており (瀬能, 2018), そのうちの 6 種がカエルアンコウ属に含まれる (Arnold and Pietsch, 2012; 瀬能, 2013). カエルアンコウ *Antennarius striatus* (Shaw, 1794) は, 国内では伊豆大島, 小笠原諸島, 北海道から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸, 宮城県から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 喜界島, および奄美大島から記録されている (瀬能, 2013).

2012 年 7 月に大隅諸島種子島長浜海岸, 2014 年 5 月 14 日に同島熊野沖からそれぞれ 1 個体のカエルアンコウが採集された. これらの標本は本種の標本に基づく大隅諸島からの初記録であるため, ここに報告する.

■ 材料と方法

計数・計測方法は瀬能・川本 (2002) にしたがった. 計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm の精度で行い, 計測値は体長に対する百分率で示した. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベー

スに登録されている.

■ 結果と考察

Antennarius striatus (Shaw, 1794)

カエルアンコウ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 50198, 体長 42.9 mm, 鹿児島県大隅諸島種子島長浜海岸, 30°33'N, 130°55'E, カニ籠, 水深 14-15 m, 2012 年 7 月, 目黒昌利・松沼瑞樹・田代郷国; KAUM-I. 61205, 体長 30.1 mm, 鹿児島県大隅諸島種子島熊野沖, 30°28'13"N, 130°58'32"E, 定置網, 2014 年 5 月 14 日, 高山真由美.

記載 背鰭 3 棘 12 軟条; 臀鰭 6-7 軟条; 胸鰭 10-12 軟条; 腹鰭 1 棘 5 軟条; 尾鰭 9 軟条.

体各部測定値の体長に対する割合 (%): 全長 138.0-142.9; 頭長 60.1-62.1; 吻長 8.9-9.0; 眼径 7.0-7.2; 両眼間隔 8.3-8.9; 体幅 30.8; 体高 55.5; 尾柄高 12.8-14.3; 吻上棘長 18.6; 背鰭第 2 棘長 18.6-19.3; 背鰭第 3 棘長 17.5-17.9; 背鰭最長軟条長 35.9; 臀鰭最長軟条長 24.6-25.6; 尾鰭最長軟条長 37.3-41.2.

体は卵型で著しく側扁する. 尾鰭は丸みをおびる. 体表は小棘で覆われる. 吻上棘の先端に皮弁を有する. 背鰭第 2-3 棘はともに後方に曲がる. 吻上棘を除く背鰭棘と軟条部は, 厚い皮膚で覆われる. 臀鰭最終軟条の後部の鰭膜と尾柄部が連続しない. 鰓孔は胸鰭腋部下に位置する. 胸鰭は体側中央に位置する.

生鮮時の色彩 KAUM-I. 50198 (Fig. 1) は, 体の地色は黄褐色を呈する. 吻上棘は黄褐色と白色の縞模様で, その先端の皮弁は淡黄色を呈する. 各鰭は淡鶯色であり, 軟条部には黒斑が散在する.

Yoshida, T., Y. Sakurai, M. Takayama and H. Motomura. 2019. First records of *Antennarius striatus* (Lophiiformes: Antennariidae) from the Osumi Islands, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 46: 181-183.

✉ TY: Seikai National Fisheries Research Institute, Japan Fisheries Research and Education Agency, 1551-8 Tairamachi, Nagasaki 851-2213, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).

Published online: 6 November 2019

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_046/046-037.pdf



Fig. 1. Fresh specimen of *Antennarius striatus* from Tanega-shima island, Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, Japan (KAUM-I. 50198, 42.9 mm standard length).

分布 *Antennarius striatus* はインド・西太平洋と大西洋に広く分布する (Pietsch and Grobecker, 1987; 瀬能, 2013). 国内では伊豆大島, 小笠原諸島, 北海道から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸, 宮城県から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 喜界島, および奄美大島から記録されており (瀬戸内海水産開発協議会, 1997; 瀬能, 2013; 岩坪・本村, 2017; 小枝ほか, 2018; Nakae et al., 2018; 村瀬ほか, 2019), 本研究により新たに大隅諸島種子島における分布が確認された。

備考 種子島から得られた標本は, 鰓孔が胸鰭腋部下にあること, 吻上棘基底が上顎の縫合部より前へ張り出すこと, 吻上棘先端の皮弁が基部で3本に分枝することなどから, 瀬能 (2013) が記載したカエルアンコウの標徴とよく一致したため, 本種に同定された。

日本国内におけるカエルアンコウの分布は「分布」の項で述べた通りであり, 記載標本は大隅諸島からの初記録となる。なお, 本研究では調査することができなかったが, 第2著者によると沖縄島塩屋湾で採集されたカエルアンコウの標本が琉球大学に保管されていた (現在は沖縄美ら島財団に移管)。本種はこれまでに沖縄県から記録され

ていないため, 今後, 同標本の再調査が期待される。

■ 謝辞

浜山水産定置網 (中種子町熊野) の岩下文男氏と関係者の皆さまには標本を提供していただいた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館分類学研究室の皆さまには標本の作製・登録作業等を手伝っていただいた。鹿児島大学大学院連合農学研究科の藤原恭司氏には文献についての助言をいただいた。以上の諸氏に対して謹んでお礼を申し上げる。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。

■ 引用文献

- Arnold, R. J. and Pietsch, T. W. 2012. Evolutionary history of frogfishes (Teleostei: Lophiiformes: Antennariidae): A molecular approach. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 62: 117–129.
- 岩坪洗樹・本村浩之(編). 2017. 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 302 pp.
- 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之(編). 2018. 黒潮のあたる鹿児島の海 内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 520 pp.
- 村瀬敦宜・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏(編). 2019. 宮崎県のさかなのまち 門川の魚図鑑. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 207 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361.
- Pietsch, T. W. and Grobecker, D. B. 1987. Frogfishes of the world: systematics, zoogeography, and behavioral ecology. Stanford University Press, Stanford. xxii + 420 pp., 56 pls.
- 瀬能 宏. 2013. カエルアンコウ科 Antennariidae. Pp. 537–542, 1883–1885. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏. 2018. カエルアンコウ科 Antennariidae. Pp. 168–169. 中坊徹次(編), 小学館の図鑑Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- 瀬能 宏・川本剛志. 2002. 日本から初記録のヒメヒラタイザリウオ(新称). *伊豆海洋公園通信*, 13 (4): 2–6.
- 瀬戸内海水産開発協議会. 1997. 瀬戸内海のさかな. 今田印刷, 大竹. 97 pp.